広報 日造協

www.jalc.or.jp

第468号

2013年3月10日

発行／一般社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association）　創刊／昭和49年6月1日　〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階　TEL03（5684）0011　FAX03（5684）0012

本号の主な内容

2、3面　第39回 全国造園デザインコンクール 入選18作品・審査講評

3面　【学会の目・眼・芽】第43回 篠沢 健太氏 境界に芽吹く―　今、造園に求められているのは？

4面　【緑滴】街路樹に想ふ　髙須賀 盛満

受賞者と審査委員をはじめ関係者で記念撮影

第39回 全国造園デザインコンクール

文部科学大臣賞 長野県須坂園芸高等学校（長野県須坂園芸高等学校）が受賞
国土交通大臣賞 久保香織さん

日造協は、第39回全国造園デザインコンクールの表彰式を2月9日、東京都千代田区麹町の弘済会館で開催。賞状の授与、受賞者による作品発表を行った。

全国造園デザインコンクールは、美しい国土と快適な生活環境の実現に欠かすことのできない造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協が主催、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会の共催、文部科学省、国土交通省、全国農業高等学校長協会、（公社）日本造園学会、NHKの後援で実施している。

今回は、住宅庭園部門に一般2、大学44、高校193、街区公園部門に大学23、高校20、公共的空間部門に大学32、高校19、実習作品部門に大学2、高校17の合わせて、352点の応募があり、入選18点、佳作10点、奨学賞22点が選ばれた。

特別賞は、文部科学大臣賞に長野県須坂園芸高等学校、国土交通大臣賞に久保香織さん（長野県須坂園芸高等学校）、（公社）日本造園学会会長賞に高橋幸宏さん（滋賀県立八日市南高等学校）、（一社）日本造園建設業協会会長賞に小野正平さん（E&Gアカデミー東京校）、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞に朝日純代さん（長野県須坂園芸高等学校）、全国高等学校造園教育研究協議会会長賞に秋山桃花さん（山梨県立農林高等学校）、杉江芳騎さん（京都府立農芸高等学校）が選ばれた。

表彰式は、冒頭、藤巻司郎日造協会長があいさつ。審査委員をはじめ、コンテスト関係者、応募に当たって指導された先生方への感謝とともに、今後一層、コンクールが広く社会に寄与していくことへの期待を述べた。

次いで、田畑淳一文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官が、コンクールでは図面の評価ということになるが、多岐にわたる造園の知識、技術を学んだ成果ともいえると、応募者、受賞者の取り組みを称えた。また、棚野良明国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長（湯澤将憲企画専門官代読）は、私たちが取り組んでいかなければならない課題が、作品にも反映され、思いが伝わってきた。これからも造園に携わっていって欲しいと述べた。

その後、特別賞の授与、受賞者による作品発表が行われ、最後に藤井英二郎千葉大学園芸学部教授が講評。記念撮影を行った。

（2・3面に特集）

国土交通大臣賞　久保 香織　長野県須坂園芸高等学校

樹林

梅と桜の頃

日造協理事・㈱執行茂寿園代表取締役　執行 英利

当地、福岡を代表する梅の名所と言えば、やはり大宰府天満宮を挙げる人が多い。境内には、六千本の梅の木が咲き誇る梅の名所がある。なかでも本殿前の右近に植えられた白梅は、飛梅（とびうめ）の名称で名高い。樹齢千年を超えるとされる御神木である。平安京朝廷の政争で都を追われた菅原道真公を慕い、一夜のうちに大宰府まで飛んで来たという飛梅伝説は有名であるが、飛んだのは梅だけではなかったのは御存じだろうか。屋敷の庭木の中でも特に愛でた梅・桜・松に別れを惜しみ梅の花には「東風吹かば　にほひをこせよ梅の花　あるじなしとて春を忘るな」と歌を詠んだ。道真公を慕った庭木のうち桜は悲しみのあまり枯れてしまい、松も梅と一緒に空を飛んだが途中で力つき摂津国八部郡板宿の近くに降り立ち根を下ろしたという。現在の兵庫県神戸市須磨区飛松町に伝わる飛松伝説である。実際は挿し木が難しい梅の木を接ぎ木（中国では三千年前から日本へは仏教伝来と共に入ったと言われる）して道真に同行した者が都の屋敷から持ち出したと考えるが他の地方にも幾つかの同様な話がある。また、久留米市にはその名も梅林寺という古刹がある。ここにも五百本の梅の木がある、臨済宗妙心寺派で別名梅林禅寺ともいう修行の厳しさでも有名な寺である、初代久留米藩主有馬豊氏が大阪の陣での功績から、丹波福知山藩より筑後久留米藩に移る際に現在の場所に遷座した有馬家歴代の菩提所である。有馬氏と言えば有馬記念は日本中央競馬会第2代理事長だった久留米藩15代当主有馬頼寧（よりやす）の功績をたたえ名付けられた。現在の京都仏教会理事長で、相国寺、金閣寺、銀閣寺の住職有馬瀬底猊下も末裔であり、今でも有馬大龍会を通じた地元との交流がある。ここは九州一の大河筑後川沿いに位置し市民の観梅の憩いの場となっている。

一方、桜の名所は個人の趣味に分かれる。桜は日本人の一番好きな花だと思うし、これに異存のある人は少ない。私自身若い頃には感じなかった特別な感情がこの花にはある。毎年、厳しい冬を乗り越え開花したこの花を観るとついつい涙が出る。

がある。八女市に無量寿院という浄土宗のお寺がある。久留米出身の画家坂本繁二郎の菩提寺である。夭折の天才画家、青木繁とは机を並べた同級生である。坂本の眠るこのお寺は山門をくぐり白壁の塀が本堂まで続く、その両側にソメイヨシノの並木がある、私は毎年ここの夜桜を観に行く。この時期ライトアップされるのだ。数年前、満開の桜を観ようと散策していると、老婦人に声を掛けられた、聞くと写真を観て欲しいと言われる。見ると手には大きくひきのばした写真を大事そうに持って居られる。それはこの場所の桜の写真であった。「これは亡くなった主人が昨年ここで撮った写真です。写真が趣味でした。本当はバイクが大好きでしたが歳だからと止めさせましたが、好きにさせてあげれば良かったと思います」との話を聞きながら熱い思いがこみ上げてきた。手渡された写真を「綺麗な写真ですね」とお返しすると満足そうに会釈されて次の花見客の方に歩いていかれた。桜には人それぞれの物語がある。

仕事がら沢山の植木を植えてきたが40年の仕事の中で若い頃に植えた公園の桜が今では、地域の桜や花の名所になっているのは嬉しい。昨年、桜の花見を若い人達に誘われた。そこは20代に数十本のソメイヨシノを植えた公園であった。その大木に成長した木の下でお前も頑張ってきたなと心で会話しながら、震災復興の願いを込めて用意された福島県の酒に花びらを浮かべ乾杯をした。

年度末労働災害防止へ 3月は強調月間

年度末は、公共工事等の多くの工事が完工時期を迎えることから、作業間の連絡調整の不足、作業指示の不徹底、過重労働等により安全衛生管理が不十分となり、労働災害が多発することが懸念されています。

このため、3月1日から3月31日まで「建設業年度末労働災害防止強調月間」に定められています。一層の労働災害防止活動の推進をお願いいたします。

第39回 全国造園デザインコンクール

入選18作品・審査講評

■藤井英二郎委員長（千葉大学園芸学部教授）

第39回造園デザインコンクールには高校生・大学生・一般で計352点の応募があり、前回に比べて高校生は少し減りましたが、大学生はここ数年着実に増加し、全応募数の3割に近づいてきました。

今回の応募では、住宅庭園部門に優れたデザインが多くありました。高校生では資源循環を生活の楽しみとした新しい雑木の庭が提案され、高校生の新鮮な感性を感じられました。大学生では上質な戸外室や家族の結びつきを育む庭が優れた表現力で提案されたデザインがいくつもありました。屋上緑化では長年期待していた商業施設内からの眺めに配慮したデザインが見られました。建物近くの造園では室内との連携が重要で、建築に対する造園からの提案も必要です。

これら2部門に対して、街区公園と実習部門は前回優れたデザインが多かったのですが、今回は少し見劣りしました。街区公園は地域環境やコミュニティの中心ですので多様なデザインが期待されます。また、造園実習は設計・施工・管理の要素を包含していますので、新規施工に限らず復元や改修・改造など多様な形が考えられます。

■田畑淳一委員（文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官）

審査は長時間におよびましたが、応募された生徒の皆さんの素晴らしい作品をたくさん拝見することができ充実感で一杯でした。そして、これまでの皆さんの努力に敬意を表し、御指導いただいた先生方にあらためて感謝申し上げます。

今年は、農と食、ユニバーサルデザイン等時代を意識した作品が多く、造園を生活の一空間として捉えた創造性あふれる作品が多く見られました。作品制作には、自分自身のアイディアをいかに表現するのか…これは、日頃から感性を高めるトレーニングや基礎的・基本的な技術鍛錬が必要であろうと考えます。

応募数がやや減少したようですが、応募されていない学校も課題研究等の授業をうまく活用することで挑戦できる内容であり、学習成果を外部で評価いただく機会としてとらえる等教育的視点で応募へ向けて再考いただくことも必要ではないかと考えます。

文部科学大臣賞は、上位入賞が多数であった長野県須坂園芸高等学校とさせていただきました。王座奪還といったところでしょうか。今後も造園デザインを学ぶ生徒の皆さんのレベルアップにつながり、コンクールのより一層の充実・発展を祈念し講評とします。

■梛野良明委員（国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長）

今回も数多くの作品を応募頂き感謝申し上げます。また指導されている教育関係の皆様や本コンクールを主催する（一社）日本造園建設業協会等関係者の皆様に敬意を表します。

審査を通じて、図面を描くという技術の向上とともに、今日的な社会的課題を敏感にとらえ、それらを如何に造園空間の中で表現しようかという努力の跡がひしひしと伝わってきました。入賞者をはじめ応募された皆様が、将来にわたり魅力的な空間の実現に造園分野から携わっていけるような社会的環境の必要性を痛感した次第です。

国土交通大臣賞を受賞した長野県須坂園芸高等学校の久保香織さんの作品は、食や循環、生物の多様さ等の観点から、伝統的な技術を取り込みつつ、これからのライフスタイルを提案し、住宅庭園という空間にそれを極めて効果的に表現した作品となっております。

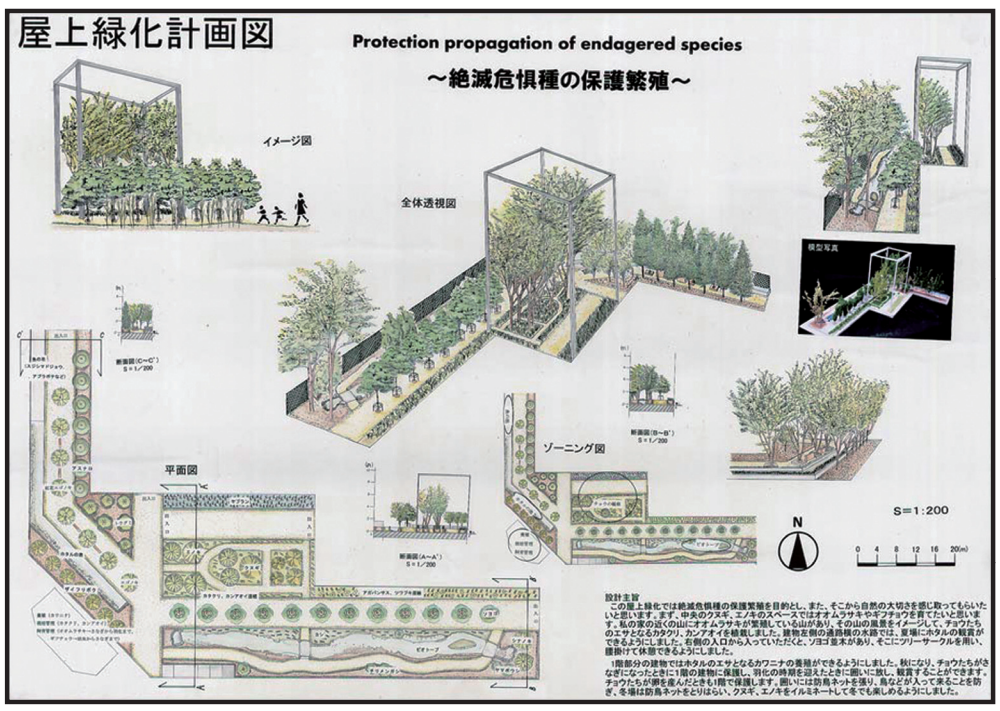
来年も多くの方の豊かな発想の作品が応募されることを期待します。

■鈴木誠委員（（公社）日本造園学会監事）

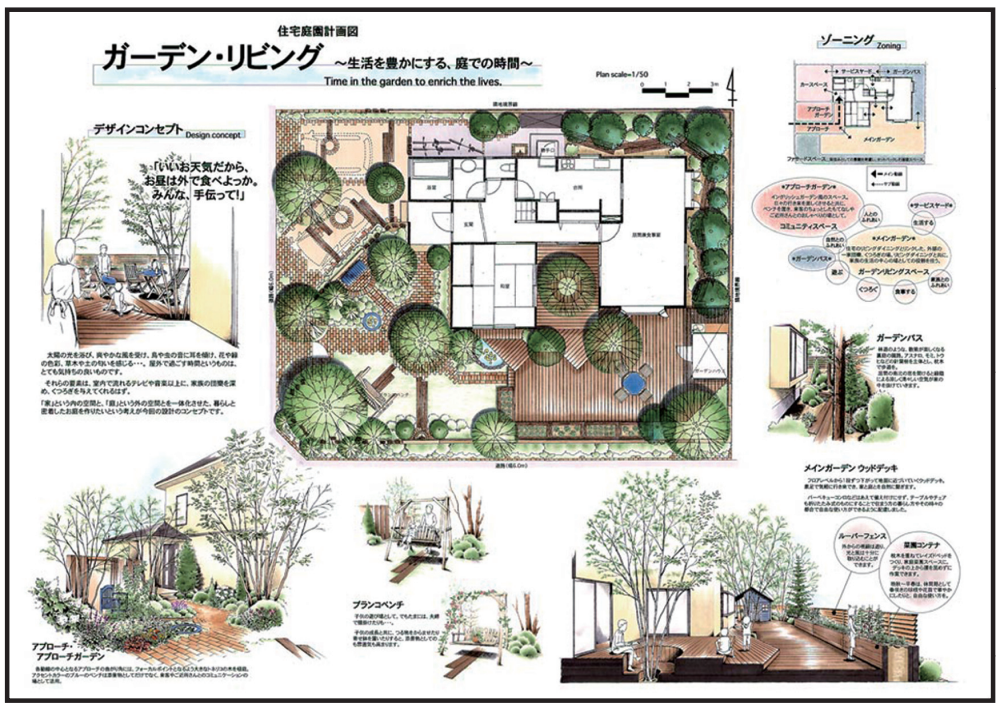
授賞は公共的空間部門（屋上緑化）作品。屋上緑化は長く低メンテナンス緑化資材を用いた人工地盤植栽のイメージがあった。しかし近年、商業施設の公共空間では屋上庭園として、質の高い緑化作品が登場し面目一新している。中には屋上ビオトープ（自然復元）の試みもある。受賞作は「屋上緑化→絶滅危惧種の保護繁殖（自然増殖）」が提案。商業施設屋上を希少な生き物（絶滅減危惧種）の楽園にしようという大胆なデザインである。具体的繁殖種名や都市鳥からの防御策も具備し、かつ人の眼差しも意識して人工都市自然の未来を予感させる点に、独創性・先進性を認めた。

■大室徳治委員（全国高等学校造園教育研究協議会理事長）

今回も素晴らしい作品を多数ご応募いただきありがとうございました。昨年に比べ38作品の減となりましたが、例年以上にワクワクさせてくれる作品が多くありました。全352作品のうち、約7割が高校生の作品であり、先生方のご指導、ご協力に深く感謝して

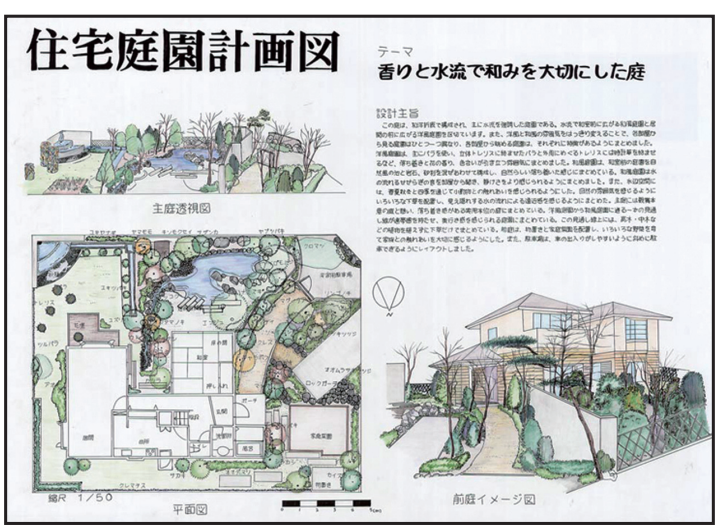


（公社）日本造園学会会長賞　髙橋 幸宏　滋賀県立八日市南高等学校



（一社）日本造園建設業協会会長賞　小野 正平　Ｅ＆Ｇアカデミー東京校

（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞　朝日 純代　長野県須坂園芸高等学校



全国高等学校造園教育研究協議会長賞　秋山 桃花　山梨県立農林高等学校

全国高等学校造園教育研究協議会長賞　杉江 芳騎　京都府立農芸高等学校

おります。今までの高校生作品は、すぐに施工可能な現実的なものが多く見受けられましたが、今回は、表現力の豊かなものや新しい観点から計画されたものが見受けられました。製図の基礎・基本も重要ですが、生徒個々の長所を伸ばしながら、自由な発想を活かしていくことも大切と思われます。全体への指導では難しいと思いますが、ぜひ工夫していただき、今後も素晴らしい作品のご応募をお願いします。

■鈴木一志委員（全国高等学校造園教育研究協議会副理事長）

今年度も数多くの作品を応募していただき誠にありがとうございました。高等学校では29校の参加がありましたが、数多くの応募をされている学校の先生方のご指導には大変感謝をしております。少子化に伴う学校や学科の減少によって、造園教育全体が減速しつつある中で、この造園デザインコンクールが39回を迎えることができたのも、全国の造園教育に関わる先生方の熱意があったからこそと感じております。さて、今年度の作品は実習部門への応募数が増加しましたが、もう少し設計と施工に工夫が欲しいと感じました。高校生らしいフレッシュな感覚で実習作品を仕上げ、ぜひ来年のコンクールに応募していただきたいと思います。

■村岡政子委員（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会理事・関東支部長）

今年も、多くのすばらしい作品を審査させていただきました。毎年、若い方々の感性と造園への熱意あふれる作品を前にして、あらためて気付かされることも多く、私自身も大変勉強になります。（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞を受賞された朝日純代さんの作品『「地域交流」やすらぎ公園』は、地域の居住者層や利用形態を想定しながらテーマ設定を行い、周辺の公園との連続性まで配慮した優れた作品です。また、東日本大震災直後に被災地を訪れた経験が、非常用貯水槽、自家発電装置、防火樹林や非常時に通り抜け可能な生垣など随所に活かされ、きめ細かく丁寧な計画・設計がなされています。関係者の方々の永年にわたる熱意とご努力に心から敬意を表しますとともに、次回も多数の作品の応募をお待ちしております。

■前澤洋一委員（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会理事・総務委員会委員長）

（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞には、352点にも及ぶ多数の力作の中から、朝日純代さんの街区公園【高校生の部】の作品『「地域交流」安らぎ公園』が選ばれました。街路樹のボスケによる周辺一帯の緑地帯形成を提案し、また当該公園の役割に防災機能を的確に位置づけるなど、まちの中での街区公園の意義・役割を明確化しており、またバランスのとれた空間構成、肌理の細か各所にちりばめられたアイディア、更には優れたプレゼンテーション力も高く評価されました。今回残念ながら受賞されなかった方々も含め、参加された全ての皆様が、造園界で新しい時代の開拓に貢献されんことを期待します。

■卯之原昇委員（一社）日本造園建設業協会業務執行理事・技術委員会委員長）

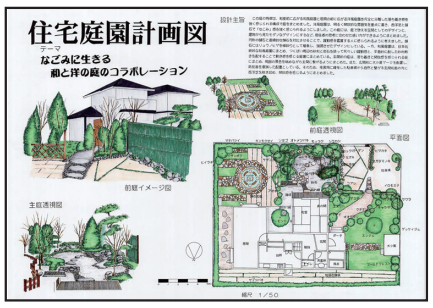
今年度の日造協会長賞は、多くの作品の中から、計画・施工・利用についてもっとも優れた作品とし、小野正平さん（E&Gアカデミー東京校）の住宅庭園計画「ガーデン・リビング」を選ばせていただきました。作品は、玄関までレンガを敷き詰めたアプローチガーデンとウッドデッキが中心のメインガーデンに大きく分かれ、樹木は株立を庭全体にバランスよく配置され、「家」という内の空間と「庭」という外の空間を一体化させ、暮らしと密着した庭というデザインコンセプト通り表現されておりました。特に人物画については、温かな家庭・家族の生活ぶりが丁寧に描かれ、ぜひ造ってみたいと思う作品でした。また来年も多くの作品の応募と若者が造園業界で活躍されることを期待しております。

■風間啓秀委員（一社）日本造園建設業協会事業委員会副委員長）

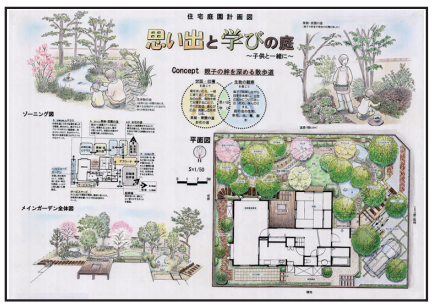
今回も例年通り4部門・3資格の多数の応募有難うございました。前回は実習作品の評価が特に高く審査委員長特別賞を高校の部が受賞しました。

今回も高校生が全般に評価が高く、5つの賞（文部科学大臣・国土交通大臣・日本造園学会長・日本造園建設業協会長・ランドスケープコンサルタンツ協会長）の内4つが高校生、残り1つが大学生（専門技術校）という結果でした。

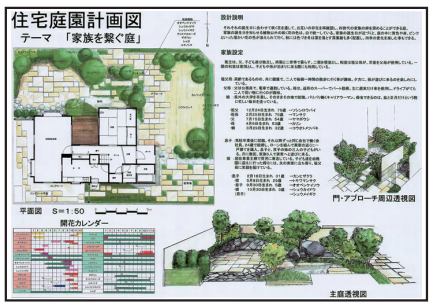
このデザインコンクールは昭和49年に第1回が開催され、来年は第40回の節目の年、過去最多応募総数は平成19年の464点です。多くの皆様のご応募をお願い致します。



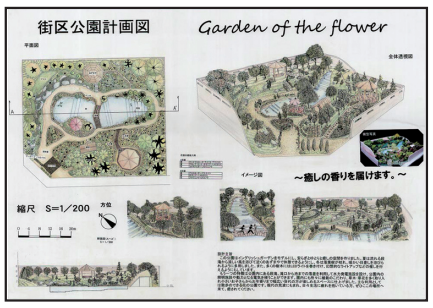
入選　保坂 泰羽　山梨県立農林高等学校



入選　小菅 三佳　E＆Gアカデミー東京校

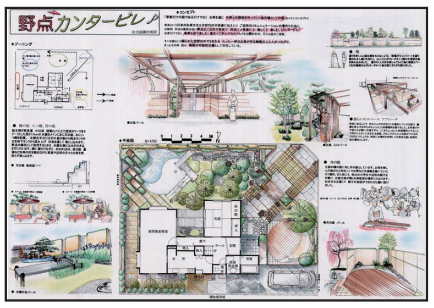


入選　遠藤　唯　中央工学校



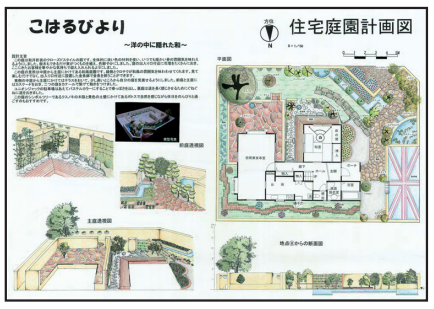
入選 木村 咲紀　滋賀県立八日市南高等学校

入選　大谷 麻綺　愛知県立猿投高等学校

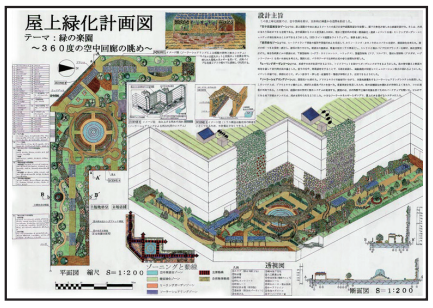


入選　奥村　徹　E＆Gアカデミー東京校

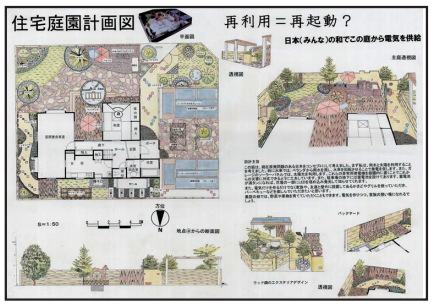
入選　廣田 香菜　長野県須坂園芸高等学校



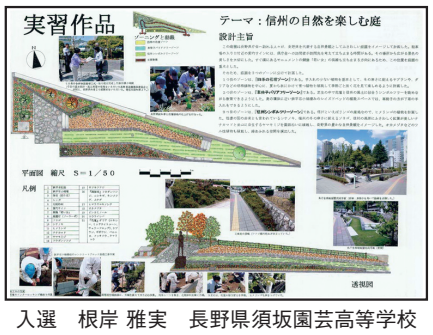
入選 川添 真美　滋賀県立八日市南高等学校



入選　根岸 雅実　長野県須坂園芸高等学校



入選 北村明寿美　滋賀県立八日市南高等学校



入選　根岸 雅実　長野県須坂園芸高等学校

入選　樋口 遥香　神奈川県立相原高等学校

学会の目・眼・芽　第43回

境界に芽吹く―　今、造園に求められているのは？

2011年4月に工学院大学建築学部まちづくり学科に赴任しました。日本初の建築学部は当然建築が主流であり、造園に属する私は当初カルチャーショックを感じました。私自身、学部・大学院と農学部に在籍していたころから設計事務所に通いつつ研究と実務相半ばの生活をし、その後も芸術大学の環境計画学科に勤務するなど境界領域を渡り歩きました。しかしこれまでの経験と比べても、造園の基礎なしでランドスケープデザインを教える苦労を痛感しました。

しかし一方で、実習や日常の仕事のなかでランドスケープに答えを求められる機会は以前より増えています。他分野から求められ、必要とされている造園、ランドスケープとは何でしょうか？

私が造園、緑地学で学んだのは「適地選定、適材適所」、あるべきものが適切にある感覚でした。必要なものを見極める力とそれを生かす提案。恩師である井手久登、武内和彦両先生による「自然立地的土地利用計画」は、生態的に適切であることは、同時に経済的・多面的にも理にかなうものとなしうるという考え方で、今も私の基本にあります。東日本大震災の復興支援に関わり、数多くの提言を見、その度に考えたのは、誰かが自分の、あるグループが自分たちの理想を、いくら「そうすべき」だと主張しても説得力はないということでした。「したいことを」ではなく「その場にあったもの」を、「したいように」ではなく「その場にあり続けるように」、「起爆剤」ではなく「蒔いた種が、仕立てた枝が数年後、形をなすように」。

その意味で、今必要とされているのは、研ぎ澄まされた先端の（完成した技術体系としての）「造園」ではなく、問題解決の基礎となる考える術、デザイン力としての「造園」、そして実行力、施工力としての「造園」なのではないでしょうか。東日本大震災などの災害の現場に立つと、非常時にこそ問題解決としてのデザイン、創意工夫が必要だと思います。「装飾」ではなく「本質」、日本庭園の石積の様式美にではなく、地域でそうせざるを得なかった石積の「切羽詰った」美しさに学ぶべきものを感じます。

注目や期待が、実務に繋がることも重要です。職能や資格制度、社会的地位と業界の構造、しかるべき対価、顧客の納得・満足度など課題はさまざまなでしょう。その解決の一つの切り口として、日本造園学会が2012年5月に編集・発行した「復興の風景像」では、復興の時・空間スケールを考慮し、場面ごとの造園の可能性をまとめました。非常時のみでなく日常にも共通していると思います。

当初私には「目地」のように感じられた場所からも、若い世代が活躍の場を求め芽吹いています。2013年3月、開設110年を迎える日比谷公園で、関東の5大学の卒業制作・修士制作を集めた「日比谷ランドスケープデザイン展」が開催されます。若い造園の芽に可能性を感じ、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

篠沢　健太（（公社）日本造園学会幹事・工学院大学建築学部准教授）

協会だより

総支部、支部、事務局からの記事を紹介します

第3回 夢物語交歓会を開催

造園・環境緑化産業振興会

造園・環境緑化産業振興会（一社）日本造園建設業協会、（一社）日本植木協会、（社）日本造園組合連合会、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、（社）日本公園施設業協会、（一社）日本運動施設建設業協会）は2月12日、東京都千代田区平河町の都市センターホテルで、造園・環境緑化産業の未来を展望する「第3回夢物語交歓会」を開催した。

当日は、坂本裕彰（社）日本造園組合連合会専務理事が司会進行。冒頭、振興会を代表して、藤巻司郎（一社）日本造園建設業協会会長があいさつした。

今回は、〝観光地づくり〟をテーマに緑豊かな環境の推進のあり方を展望することとし、2つの講演で構成。

白砂伸夫神戸国際大学経済学部都市環境・観光学科教授は「フラワーランドスケープと観光」をテーマに、花のもたらす観光、経済への波及効果は莫大なものと予想され、花見や花を愛でる鑑賞方法は日本文化の独自性をよく表現していると、「フラワーランドスケープ」の定義と歴史性、技術の伝承、観光的価値などについて解説。花のつくり出す多様な景観である「フラワーランドスケープ」は、広範囲に展開することが可能で、日本の文化を代表し、観光的、経済的、景観的価値も期待でき、「ランドスケープ」が日本の新しい観光の形になるとした。

次いで、さいとうみつこ（一財）カミーノあきた理事長が「地域のお宝発見！歴史・文化の伝承で町おこし」と題して講演。母からの口伝が現在の活動のきっかけであるなど、自らの体験やこれまでの取り組みを紹介。地域の言い伝えなどを掘り起し、それらを繋ぐとカミーノ「道」（スペイン語）ができる。訪れる人が種を蒔き、花の道にしていくなどすれば、より多くの人が訪れる観光資源にもなると、可能性を語った。

講演する白砂伸夫氏㊤と、さいとうみつこ氏㊦

復興支援ネットから日造協に感謝状

日造協は、花とみどりの復興支援ネットワーク事務局から2月20日、感謝状をいただいた。

感謝状は、復興支援ネットの趣旨に賛同、基金への寄付に対するもの。

復興支援ネットは平成23年10月1日に発足し、広く募金活動を展開。平成25年2月20日までの寄付総額は1322万7781円で、被災地域で花と緑による復興支援活動を実施しているボランティア団体に1308万7909円を助成している。

感　謝　状

一般社団法人日本造園建設業協会 殿

あなたは東日本大震災における花とみどりを活用した復興支援活動にご賛同いただき花とみどりの復興支援ネットワーク基金へ多額のご寄付を賜りましたそのご厚意に対し深く感謝の意を表します

平成２５年２月２０日

花とみどりの復興支援ネットワーク事務局

一般社団法人日本公園緑地協会
会長 丸田頼一

財団法人日本花普及センター
会長 今西英雄

公益財団法人日本花の会
理事長 萩原敏孝

緑滴

街路樹に想ふ

巷に当たり前のように立つ街路樹。今、その街路樹が〝危機〟を迎えている。

そもそも街路樹は、美しい街並みを演出する唯一無二の生物である。そこには人間の本能ともいうべき自然観が溢れている。そのため、我々造園業者は植樹のみならず街路樹剪定士なる資格を設け、目標となる大きさを設定し、樹種にあった剪定を行い、統一感のある街路樹を形作っている。

それが、昨今の経済事情から維持費の削減が行われ、新設道路においても植樹帯は作るものの、コンクリートで埋められてしまっている。また、既存の街路樹も伐採される例が増えてきているのが現状である。

確かに、我々の居る瀬戸内地方の特性で、真砂土は養分が少なく、保水性にも劣る。その上降水量が少ないものだから夏季の灌水が不可欠である。当然維持費もかさむ。また、都心部を少し離れると自然がふんだんに残っており、「緑は充分ある」という考え方もあるだろう。

しかし、この愛すべき田舎でも都心部やそこからドーナツ状に広がる道路はかなり整備され、都会様の景観になりつつある。つまり緑のない地域が増えてきているのだ。周囲に緑のない都会では街路樹や公園等、緑が重要視されている。地方と都会の温度差はあれども、街路樹が必要な事に変わりはない。身近に緑を感じることは生活の豊かさにつながる。新しい住宅街に新しい道路、しかし無機質であることは誠に残念である。そこで暮らす住民たちの意識としてはどうなのであろう。

一業界人を離れ、一人の人間として想うとき、幼い頃父母に手を引かれ楽しい街並みを歩いた想い出が蘇る。そこには必ず充実した緑があった。緑を本能で感じていたのであろう。今でも郷愁を感じる。

我々造園業者は緑の大切さを伝えてゆく使命をもっているのだ。

髙須賀盛満（髙須賀緑地建設㈱）

委員会等の活動

■総務委員会（新法人移行検討ＰＴ）

諸規程の改正について、①総支部規程②支部規程③事務局運営規程④就業規程⑤委員会規程⑥慶弔規程⑦経理規程⑧表彰規程⑨旅費規程⑩入会に関する取扱要綱の検討を行った。（2月15日）

■総務委員会（広報活動部会）

広報日造協3～5月号、次年度に向けた取り組み方向等について審議した。（3月1日）

事務局の動き

【2月】

1㈮・アジア太平洋蘭会議・蘭展及び沖縄国際洋蘭博覧会審査
4㈪・東京都支部経営研修会
9㈯・第39回全国造園デザインコンクール表彰式
13㈬・北陸総支部・支部交流会
15㈮・新法人移行検討ＰＴ会議（諸規程の改正検討）
20㈬・台中園芸博覧会ＡＩＰＨ現場調査視察～22日
・第2回造園施工管理技術検定委員会（国交省）
21㈭・社会保険等未加入対策講習会（関東・甲信総支部）
・関東・甲信総支部・支部支部交流会
22㈮・（一社）長野県造園建設業協会通常総会
25㈪・社会保険等未加入対策講習会（北海道総支部）
・北海道総支部・支部交流会
26㈫・運営会議
・日本造園建設業厚生年金基金理事会
・日本造園建設業厚生年金基金代議員会
・（社）福島県造園建設業協会通常総会
・登録造園基幹技能者講習講習委員会
27㈬・台中園芸博覧会ＡＩＰＨ幹部会議～15㈮

【3月】

1㈮・総務委員会広報活動部会
4㈪・造園・環境緑化産業振興会座談会
5㈫・登録基幹技能者講習テキスト編集部会
・社会保険等未加入対策講習会（九州総支部）
7㈭・東北地方整備局への要望活動
8㈮・技術委員会（調査・開発部会、安全部会）
11㈪・ＡＩＰＨ幹部会議～15㈮
19㈫・資格制度委員会
22㈮・総務委員会（財政・運営部会）
26㈫・運営会議
27㈬・全国都市緑化フェアＴＯＫＹＯ実行委員会総会
28㈭・造園・環境緑化産業振興会事務局会議
29㈮・総支部長等会議
・通常理事会

日造協賛助会員の紹介 48 ㈱リック

国内の造園・エクステリア設計の現場において、もっとも多くのプロに利用されている「ＲＩＫＣＡＤ２１」。その教育機関向け学習用システムである「アカデミックパック」導入校に対し、当社ではＣＡＤ特別授業を実施しております。デザインコンクール応募対策として「基本的なＣＡＤ操作」や「美しいパースの作り方」などを訪問指導。（写真）高いＣＡＤスキルは即戦力が求められる業界への就職活動にも必ず役立ちます！詳しい授業内容や商品に関するお問い合わせはこちらまで。

2013年2月4日～2月12日に行った「Ｅ＆Ｇアカデミー東京校」での授業風景

〒107・0062　東京都港区南青山2の12の14、ユニマット青山ビル7F、☎03・5411・7891　FAX03・5411・0961